

## 法学部（学士（法学））の卒業の認定に関する方針

日本大学法学部（学士（法学））は、日本大学教育憲章に基づき、「日本大学の目的及び使命」を理解し、次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（法学））における能力を修得した者に、「学士（法学）」の学位を授与する。

## 法学部法律学科（学士（法学））の教育課程の編成及び実施に関する方針

日本大学法学部（学士（法学））は、卒業の認定に関する方針に適う人材を養成するため、次表に基づき、4年間を通じて、体系的なカリキュラムを編成し実施する。また、各科目における教育内容・方法、成績評価方法及び評価基準をシラバス等で明示し、学生に周知した上で、実施する授業形態に即し、公正かつ厳正に評価を行う。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	[DP-1] 社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。	[CP-1] ・現代社会における法の役割を理解し、説明することができる。 ・高い倫理観と優れた人格を備えて、適切かつ責任ある行動をとることができる。 ・他者の人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる。 ・日本大学の学則に従って学生生活を過ごすことができる。
世界の現状を理解し、説明する力	世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	[DP-2] 日本及び世界の法、政治、行政、経済の仕組みと、それが直面している問題を理解し、説明することができる。	[CP-2] ・日本及び世界の法の仕組みを理解し、的確に説明することができる。 ・社会における法的問題を認識し、それにどのように取り組むべきかを述べることができる。
論理的・批判的思考力	得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	論理的・批判的思考力	[DP-3] 社会科学の基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。	[CP-3] ・法学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる。 ・法学の基礎的知識に基づいて、物事を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
問題発見・解決力	事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	問題発見・解決力	〔DP-4〕 社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的にかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	〔CP-4〕 ・社会における問題の解決にとって必要な情報を積極的に収集・分析し、それを解決策に役立てることができる。 ・社会における法的問題を抽出し、専門的知識に基づき具体的な解決方法を示すことができる。 ・法律学に関する体系的知識を修得し、法的観点に立って問題を解決することができる。
挑戦力	あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。	挑戦力	〔DP-5〕 法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、あきらめない気持ちをもって、より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。	〔CP-5〕 ・法律学の専門的知識を基に、自らが取り組むべき課題を探究することができる。 ・専門的知識・能力を社会の様々な領域に応用することにより、社会に貢献することができる。
コミュニケーション力	他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。	コミュニケーション力	〔DP-6〕 多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝えることができる。	〔CP-6〕 ・コミュニケーション能力を高め、自らの考えを的確に伝えることができる。 ・社会の中で積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・他者とのコミュニケーションを通じて、多様な価値観を理解・尊重することができる。
リーダーシップ・協働力	集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	リーダーシップ・協働力	〔DP-7〕 社会・共同体のさまざまな活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重し、自らすすんで協働するとともに、リーダーとして協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	〔CP-7〕 ・リーダーとしての役割を理解し、社会の中でリーダーシップを発揮することができる。 ・他者を尊重し、信頼関係を構築することにより、協働して問題解決に取り組むことができる。 ・問題解決のために話し合いの場を設け、自主的に問題を解決することができる。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
省察力	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。	省察力	[DP-8] 他者からの評価を謙虚に受け止め、自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより、生涯にわたり、社会人としての自己を高めることができる。	[CP-8] 他者の意見を謙虚に受け入れ、自己の達成度を客観的に分析した上で、さらなる目標を定めて、それを達成するために積極的に取り組むことができる。

## 法学部（学士（法学））の卒業の認定に関する方針

日本大学法学部（学士（法学））は、日本大学教育憲章に基づき、「日本大学の目的及び使命」を理解し、次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（法学））における能力を修得した者に、「学士（法学）」の学位を授与する。

## 法学部政治経済学科（学士（法学））の教育課程の編成及び実施に関する方針

日本大学法学部（学士（法学））は、卒業の認定に関する方針に適う人材を養成するため、次表に基づき、4年間を通じて、体系的なカリキュラムを編成し実施する。また、各科目における教育内容・方法、成績評価方法及び評価基準をシラバス等で明示し、学生に周知した上で、実施する授業形態に即し、公正かつ厳正に評価を行う。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	[DP-1] 社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。	[CP-1] ・社会における政治と経済の役割を理解し、説明することができる。 ・法律、社会道徳及び日本大学の学則に従って学生生活を過ごすことができる。 ・高い倫理観に基づいて、政治・経済分野での自らの使命・役割を果たすことができる。
世界の現状を理解し、説明する力	世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	[DP-2] 日本及び世界の法、政治、行政、経済の仕組みと、それが直面している問題を理解し、説明することができる。	[CP-2] ・日本と世界の政治や経済の仕組みや現状を分析し、説明することができる。 ・日本や世界が直面する政治的・経済的問題を的確に把握し、理解することができる。
論理的・批判的思考力	得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	論理的・批判的思考力	[DP-3] 社会科学の基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。	[CP-3] ・社会の政治現象や経済活動を客観的・批判的に観察し、その本質を把握することができる。 ・政治と経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析することができる。 ・政治と経済に関する新たな知見を生み出すことができる。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
問題発見・解決力	事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	問題発見・解決力	[DP-4] 社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的にかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	[CP-4] ・政治活動や経済活動に積極的に参加することができる。 ・社会の現状を観察し、政治や経済に関する問題を発見することができる。 ・政治的・経済的問題に対する解決策を提案することができる。
挑戦力	あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。	挑戦力	[DP-5] 法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、あきらめない気持ちをもって、より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。	[CP-5] ・社会の抱える政治的・経済的課題に継続的に取り組むことができる。 ・よりよい社会の創造に向けて、政治的・経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。
コミュニケーション力	他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。	コミュニケーション力	[DP-6] 多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝えることができる。	[CP-6] ・政治や経済に関する他者の意見を理解・尊重することができる。 ・政治や経済に関する学問的知識を活用して、論理的にコミュニケーションを図ることができる。 ・政治や経済に関する自らの考えを正確に伝えることができる。
リーダーシップ・協働力	集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	リーダーシップ・協働力	[DP-7] 社会・共同体のさまざまな活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重し、自らすすんで協働するとともに、リーダーとして協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	[CP-7] ・政治活動や経済活動に参加するにあたり、多様な考えをもつ人々と協力しあうことができる。 ・社会において、政治や経済に関する学問的知識を応用して、リーダーシップを発揮するとともに、協働者を支えることができる。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
省察力	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。	省察力	<p>[DP-8]</p> <p>他者からの評価を謙虚に受け止め、自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより、生涯にわたり、社会人としての自己を高めることができる。</p>	<p>[CP-8]</p> <p>・政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。</p> <p>・自らの政治活動や経済活動への参加状況や貢献度合いを振り返り、客観的に評価することができる。</p> <p>・生涯にわたり社会に貢献できるよう、日頃から政治や経済の新しい知識の獲得に励むことができる。</p>

## 文理学部（学士（文学））の卒業の認定に関する方針

日本大学文理学部（学士（文学））は、日本大学教育憲章に基づき、「日本大学の目的及び使命」を理解し、次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（文学））における能力を修得した者に、「学士（文学）」の学位を授与する。

## 文理学部（学士（文学））の教育課程の編成及び実施に関する方針

日本大学文理学部（学士（文学））は、卒業の認定に関する方針に適う人材を養成するため、次表に基づき、4年間を通じて、体系的なカリキュラムを編成し実施する。また、各科目における教育内容・方法、成績評価方法及び評価基準をシラバス等で明示し、学生に周知した上で、実施する授業形態に即し、公正かつ厳正に評価を行う。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。	(DP3) 自然や人間・社会の複雑性を認識し、問題を見出す力	(DP3) 自然の摂理を解明するとともに、多くの対立や葛藤を抱えた人間・社会の複雑性を科学的に認識し、問題を見出すことができる。	(CP1) 総合教育科目（保健体育科目を含む）を通して、心身の健康、大学生活への適応、学修スキルの修得、卒業後のキャリアを見据えた4年間の学びの目標設定と計画策定を行うとともに、社会人としての基礎力の獲得に向け、4年間にわたってその計画を必要に応じて自主的に修正しながら着実に実行に移していきます。
世界の現状を理解し、説明する力	世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。	(DP2) 多様性に対する想像力と理解力	(DP2) 古今東西の多様な文化や社会について豊かな想像力と理解力を持ち、少数者を含めた他者への共感的な感覚や態度を身につけている。	(CP3) 個々の科目ではアクティブ・ラーニング等の方法によって、それらの諸問題を自らの現実と関連づけて理解し、その解決を志向します。 (CP7) 外国語科目では、インタラクティブな授業や海外交流を、総合教育科目では、日本研究・国際研究科目を履修することを通して、国際的なコミュニケーションと協働性を学びます。
論理的・批判的思考力	得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	(DP3) 自然や人間・社会の複雑性を認識し、問題を見出す力	(DP3) 自然の摂理を解明するとともに、多くの対立や葛藤を抱えた人間・社会の複雑性を科学的に認識し、問題を見出すことができる。	(CP5) 人文系・社会系・理学系にまたがる総合教育科目群から、すべての系の科目をバランスよく履修することを通して、自然、人間、社会のそれぞれの複雑性だけでなく、それらの関連を、学術的、科学的に認識し、個々の領域の問題だけでなく領域間の相互作用によって生じる問題をも発見します。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
問題発見・解決力	事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	(DP3) 自然や人間・社会の複雑性を認識し、問題を発見する力	(DP3) 自然の摂理を解明するとともに、多くの対立や葛藤を抱えた人間・社会の複雑性を科学的に認識し、問題を見出すことができる。	(CP5) 人文系・社会系・理学系にまたがる総合教育科目群から、すべての系の科目をバランスよく履修することを通して、自然、人間、社会のそれぞれの複雑性だけでなく、それらの関連を、学術的、科学的に認識し、個々の領域の問題だけでなく領域間の相互作用によって生じる問題をも発見します。 (CP6) 一部の総合教育科目や多くの専門教育科目において、問題発見・解決型学習(PBL)、グループワーク、集団討議、反転授業等のアクティブ・ラーニングを導入した講義や演習や実習等を履修します。それによって、主体的に問題を発見し、その問題に学術的に取り組み、その解決に向けて、創造的なコミュニケーションを通して他者と協力していきます。
挑戦力	あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。	(DP1) 自主性と創造力	(DP1) 自分から目標を定め、その実現に向けて、自ら考え、行動するとともに、伝統を尊重しながらも、既存の権威や規範に拘束されない創造力をもっている。	(CP2) 総合教育科目(各学問の基礎教育科目)を通して、伝統的な諸学問を、領域を超えて学修するとともに、総合科目を通して、既存の学問の枠組にとらわれない主体的、創造的な学びを行います。
コミュニケーション力	他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。	(DP5) 創造的なコミュニケーション能力	(DP5) 言語や身体など、さまざまな媒体を通して他者の思いや考えを受けとめるとともに、自分の思いや考えを伝え、創造的な対話と議論を重ねることができる。	(CP4) 外国語教育科目では、英語、中国語、ドイツ語、フランス語、日本語(外国人対象)の5つの異なる言語のなかから1つを選択し、基礎的なコミュニケーション能力、表現力や読解力を修得することを通して、自分とは異なる多様な人々や文化や社会と対面するなかで、自己を相対化し、他者をそれ自身として認識し理解します。 (CP7) 外国語科目では、インタラクティブな授業や海外交流を、総合教育科目では、日本研究・国際研究科目を履修することを通して、国際的なコミュニケーションと協働性を学びます。 (CP6) 一部の総合教育科目や多くの専門教育科目において、問題発見・解決型学習(PBL)、グループワーク、集団討議、反転授業等のアクティブ・ラーニングを導入した講義や演習や実習等を履修します。それによって、主体的に問題を発見し、その問題に学術的に取り組み、その解決に向けて、創造的なコミュニケーションを通して他者と協力していきます。



日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
リーダーシップ・協働力	集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	(DP4) 多くの人々とともに問題解決に向かう力	(DP4) 見出された問題に立ち向かい、的確な情報収集や分析をしながら多くの人々と協力し、解釈や解決に向けてリーダーシップを発揮することができる。	(CP6) 一部の総合教育科目や多くの専門教育科目において、問題発見・解決型学習(PBL)、グループワーク、集団討議、反転授業等のアクティブ・ラーニングを導入した講義や演習や実習等を履修します。それによって、主体的に問題を発見し、その問題に学術的に取り組み、その解決に向けて、創造的なコミュニケーションを通して他者と協力していきます。 (CP7) 外国語科目では、インタラクティブな授業や海外交流を、総合教育科目では、日本研究・国際研究科目を履修することを通して、国際的なコミュニケーションと協働性を学びます。
省察力	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。	(DP6) 専門的知識や技能を総合的に活用する力	(DP6) 幅広い教養の基盤に立って、各学科の学位プログラムに基づいて修得した専門的知識・技能をつなぎ、総合的に活用することができる。	(CP8) 文理学部の4専攻のみならず、法学部・経済学部・商学部の基礎的な入門科目群から高度な発展科目群にいたる専門科目群を、適切に組み合わせ、各学問の体系性に応じた履修単位数制限や進級要件のなかで横断的に履修していきます。それによって、21世紀の国際社会のなかで直面する現実の諸問題の発見からその整理、解決に向けて教養的知識、専門的知識・技能を総合的、学術的に活用し、卒業研究や卒業論文研究に結実させます。 (CP9) 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に従って履修系統図に示したカリキュラムの目的を達成するために、各科目に設定された到達目標の達成の程度を、シラバスに記載された方法を用いて成績評価を行います。成績評価は、テストによるもののほか、レポートやプレゼンテーションや実技や授業参画度によるものなど、また、それらを組み合わせ、各科目の内容や方法に合わせて複合的、多元的に行います。 (CP10) 学生が履修した各科目の成績評価を集計することによって、教育成果を分析し、改善していきます。

## 経済学部（学士（経済学））の卒業の認定に関する方針

日本大学経済学部は、学士課程を通して、自立した個性、豊かな人間性、専門的創造性、世界的視野を持つ人材として自ら成長する、日本大学の学則第1条に掲げた「自主創造」を教育の基本理念とします。教養教育、経済学の学修を通じて、経済社会システムを構成する市場・企業・制度・政策に関する深い知識を身につけ、主体的に考え、行動することで、変化し続ける経済社会が直面する諸問題の解決を通じて、人々の幸福の増進に寄与できる人材の育成を目標とします。このディプロマ・ポリシーに基づき設定された卒業要件を満たした者に、学士（経済学）の学位を授与します。

## 経済学部（学士（経済学））の教育課程の編成及び実施に関する方針

幅広い知識の獲得のために、教養関係科目を、そして経済学的思考の基礎を固めるために経済学概論、経済原論、経済史総論を、全学生に共通して設置します。

総合教育科目及び専門科目について、それぞれ各科目の配当年次を明示して、段階的な学修を奨励します。専門的な知識を体系的に学ぶために、2年次から選択科目を履修するものとします。

また、十分な予習・復習時間の確保と、授業内容の確実な理解が可能となるように、履修単位数のキャップ制を設けます。

なお、各授業科目の学修方法、学修過程、学修成果の評価の方法、評価基準をシラバスに明示し、学生に周知します。学修成果の評価に関しては、実施する授業形態に即し、適正かつ厳格な方法で実施します。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。	善悪を判断する内面的原理を獲得し、社会で正しく行動する力	目先の利益にとらわれず、善悪を正しく判断する内面的原理を獲得することによって、社会常識・社会規範を守り、信頼し合える人間関係を築く力を身に付けます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入教育をとおして、学術界の法令順守に必要とされる知識・精神を養う訓練を行います。</li> <li>・総合教育科目の履修をとおして、社会規範を守るのに必要とされる広範な文化的知識と品位を養います。</li> <li>・専門科目の履修をとおして、企業コンプライアンスをはじめとする、経済界・経営界における、より専門的な法令順守に関する知識・精神を養います。</li> </ul>
世界の現状を理解し、説明する力	世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。	地域社会や日本を含む多様で複雑な世界を理解する力	複雑な経済社会システムの本質的な要素を抽出し、相互依存関係にある歴史や社会制度を理解する力や、価値観や判断基準の異なる考えを理解するための柔軟な姿勢を身に付けます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合教育科目及び専門科目について、それぞれ各科目の配当年次を明示して、段階的な学修を奨励します。専門的な知識を体系的に学ぶために、2年次から選択科目を履修するものとします。</li> <li>・英語等外国語の4技能（読む・聞く・書く・話す力）の習得を系統的に図り、グローバル時代のコミュニケーション能力を涵養します。さらに海外交流スクーリング等による国際交流を通じて、実際の経験を通じた多様性への理解を高めます。</li> <li>・各授業科目の学修方法、学修課程、学修成果の評価の方法、評価基準をシラバスに明示し、学生に周知します。</li> </ul>

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
論理的・批判的思考力	得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。	冷静に問題のメカニズムを読み解く力	近代経済学の基礎理論にもとづく，現象の背後にある本質を見極めようとする思考力，及び感情に流されない理路整然とした論理展開力を身に付けます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入教育によって，大学における学びの基礎を作った上で，経済学概論，経済原論，経済史総論により，経済学的思考の基礎を固め，問題の本質を把握する訓練を行います。</li> <li>・経済理論，各種応用経済学系科目によって，経済活動の仕組みや市場の役割を理解し，経済政策や制度の可否判断できる力を涵養します。</li> </ul>
問題発見・解決力	事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。	経済社会の問題を発見し，その問題を解決する力	経済社会の問題を発見し，状況に応じて経済・経営的な問題を主体的に考察することで，能動的に問題を解決する力を身に付けます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済理論，各種応用経済学系科目によって，経済活動の仕組みや市場の役割を理解し，経済政策や制度の可否判断できる力を涵養します。</li> </ul>
挑戦力	あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。	他者への温かい共感の下で，問題に挑戦する力	不況，失業，貧困，など経済的逆境の中で，生活を脅かされている人びとに正面から向き合い，経済社会の問題に対して，自らの利害を超えて，より良い未来を創るためにそれに挑む力を身に付けます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置された福祉労働系，都市環境系科目によって，様々な立場に置かれている人びとへの共感の下に，多様で経済社会の問題を発見し，それに挑戦する力を育みます。</li> <li>・他学部配当科目の横断的な科目体系によって，経営・財務・企画・営業などの，実務において求められる能力を向上させるとともに，社会に貢献する職業人としての基礎を学びます。</li> </ul>
コミュニケーション力	他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを伝えることができる。	他者の声を聞き，自分の考えを表現し，発信する力	人びとに自分の考えを伝え，それが論理的根拠を持っていることを納得させることのできる能力，他社の意見や知識を聞く能力を高めることを通じて，異なる価値観，文化的背景を有する人びとと対話を行うことを可能にします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入教育において，問題発見・解決型学習，グループワーク，集団討論などのアクティブラーニングを導入した学習を行います。</li> <li>・スクーリングにより，学生同士の協働による学修を促進します。</li> </ul>

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
リーダーシップ・協働力	集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	協働による問題解決のなかで、自らの役割を認識し、全うする力	他者とともに、問題に挑み、それを解決することを通じて自らの役割を認識し、自らの役割を全うする力をつけます、	・リーダーシップや問題解決能力の向上を目指した教育を行います。
省察力	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。	自らを振り返り、改善策を見出す力	一連の協働のプロセスを振り返り、改善策を見出す力を身に付けます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学修成果の評価に関しては、実施する授業形態に即し、適正かつ厳格な方法で実施します。</li> <li>・十分な予習・復習時間の確保と、授業内容の確実な理解が可能となるように、履修単位数のキャップ制を設けます。</li> <li>・導入教育において、問題発見・解決型学習、グループワーク、集団討論などのアクティブラーニングを導入した学習を行います。</li> <li>・スクーリングにより、学生同士の協働による学修を促進します。</li> </ul>

## 商学部（学士（商学））の卒業の認定に関する方針

日本大学商学部（学士（商学））は、以下に掲げるディプロマ・ポリシーに基づき設定された卒業要件を満たした者に、学士（商学）の学位を授与します。

日本大学商学部は、日本大学学則第1条に掲げた「自主創造」を教育の基本理念とします。その教育理念を達成するために学士課程を通して、自立した個性・豊かな人間性・専門的創造性・世界的視野を持つ人材として成長することを目指します。そして、グローバルビジネス社会に対応できる実学を修得し、日本だけでなく、世界で新しく生まれるビジネスシーンを創造し、現代社会が直面する諸問題の解決を通じて、人々の幸福の増進に寄与できる人材を育成します。

## 商学部（学士（商学））の教育課程の編成及び実施に関する方針

日本大学商学部（学士（商学））は、ディプロマ・ポリシーに適う人材を養成するため、以下に従い、4年間を通じて、体系的なカリキュラムを編成し、実施する。また各科目における教育内容・方法、成績評価方法及び強化基準をシラバス等で明示し、学生に周知した上で、実施する授業形態に即し、公正かつ厳正に評価を行う。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。	ビジネスを学ぶ上で修得すべき人文科学・社会科学・自然科学にわたる幅広い知識・教養と語学力を基礎とする豊かな人間性と高い倫理観。	幅広い知識・教養、豊かな人間力と高い倫理観に裏打ちされた、確かな常識を持つ市民として、正しいビジネス判断ができる。	商学(ビジネス)は古くて新しい学問であり、市場システム(生産と消費)にその本質があることから、温故知新の言葉のごとく、既存の学問を習得することで豊かな知識・教養を身に付け、それを基に高い倫理観と柔軟なバランス感覚を養い、正しいビジネス判断をすることで、新境地を拓くことができる。
世界の現状を理解し、説明する力	世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。	グローバル化した世界において、刻々変化するビジネス社会の現況を十分に理解し、ビジネスに関わる社会システムの土台となる個人や企業の重要性を説明し伝える力。	グローバル社会で、ビジネスに必須とされる教養、英語、ビジネス・ツール、コミュニケーション力を持つことで、様々なビジネスシーンを理解し、説明することができる。	ビジネスに必須とされる経済知識及び広い教養(政治学・歴史学・宗教学・哲学・文学など)を身に付け、英語、ビジネス・ツール(コンピュータに代表されるデータ解析など)を使いこなす能力を体系的に修得し、世界に通用するコミュニケーション力を活用して、様々なビジネスシーンを分析理解し、その背景、経緯、問題点等を分かりやすく説明することができる。
論理的・批判的思考力	得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	ビジネス及びビジネス環境に関する情報を基に論理的な思考をする力。	ビジネスおよびビジネス環境に関する情報の含意を正しく読み取った上で、現象の皮相だけを見ず、その本質を見極めることができる。	商学に関する先学の叡智を広くかつ深く学ぶばかりでなく、また、将来の社会の動向を推測するための歴史的思考も身に付け、独善に陥ることなく対話や討論を通じ、客観的な証拠に基づいて、説得力のある結論を導き、またそれを文章等によって論理的に表現することができる。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
問題発見・解決力	事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	ビジネスの現場で生起する事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案する力。	ビジネスのボトルネックとなるような問題を、先例にとらわれず、独自の視点から、自らの情報分析力と思考力によって、実効的な解決策を導くことができる。	社会、人文、自然に及ぶ豊かな教養を身に付けることによって多角的な視点を持ち、専門領域ばかりでなく隣接諸科学を交えた学際的思考を養い、過去の事例研究を踏まえつつ、ビジネス社会で新たに生起する難問に積極的に挑戦し、広く情報を分析・総合して、コスト・ベネフィットの比較も考慮した実効的な解決策を導くことができる。
挑戦力	あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。	ビジネスの現場その他において新しい事に果敢に挑戦し、創造的破壊を実践することができる力。	新しく生まれ来るビジネスシーンにおいて、失敗を恐れず、粘り強く、果敢に挑戦し続けることができる。	ビジネス社会で専門知識及び行動力を持つ実践的な人材として活躍し、パイオニア精神に基づき社会・経済構造の変化に先んじて対応しながら組織を運営し、活動を計数的側面から捉えることで組織の新たな挑戦を可能とすることができる。
コミュニケーション力	他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。	国内外でのビジネスの場などで他者の意見を理解しつつ、自分の意見を正確に伝えることができる力。	他者の考えを聞いて理解し、かつ自分の考えを正確に伝えることで、他者との相互理解や共同作業を進めることができる。	主に少人数で行われる科目を学ぶ中で、問題提起や対応・解決について学修し、アクティブラーニング等を活用することで、国内外のビジネスその他の場で活躍できるコミュニケーション力及び専門知識を身に付け、他者との対話によってより良い解決策を見出すことができる。
リーダーシップ・協働力	集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	グローバル社会の中で、国籍・言語を超えて連携協力しつつ、協働者の力を引き出し、その活躍を支援できる力。	グローバル社会の中で、国籍・言語を超えて連携協力しながら、リーダーシップを発揮しつつ、集団の中心となり、協働者の力を引き出し、その活躍を支援できる。	日本及び世界の経済・ビジネスを系統的に学び、あわせて外国語をマスターし、グループディスカッションを通じて、討論・議論のできる力を養うとともに協働性を身に付け、グローバルな視点から、集団の中でリーダーシップを発揮しつつ、他人の意見を十分に尊重し、その能力を認めて伸ばし支援することができる。
省察力	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める力。	常に自分の言動を振り返り自省することで、自分の長所短所を知り、自己啓発をすることができる。	社会人としての十分な幅広い教養と道徳観・倫理観・世界観・歴史観を養い、他人の言動を尊重しつつ、自己分析を冷静に行いながら、驕ることなく常に自分を見つめ、自分の長所・能力を伸ばすことができる。